

今年度のニュースレターをお届けします。

今年度は、昨年度より始めました研究実践プロジェクト「過去と未来をつなぐ～危機の乗り越えに向けて」の2年目になります。「『社会による子育て～ソーシャルペダゴジー』」の概念のもとに進める、『子ども・子育て』に関する研究・実践」「トラウマ（戦争、災害、虐待、暴力等）、人生史、記憶を対象にした、思想、心理学、アート、歴史、社会学などによる学際的研究」「人間科学の哲学的・思想的基盤を検討する研究。特に、甲南大学の財産である九鬼周造文庫を生かした、図書館とも連携して行う九鬼思想の研究」の三つの主題を軸に活動を行ってまいりました。

残念ながら、今年度も、新型コロナウイルス感染症のため、前期中間中は緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置がだされていたため、多くの活動が本来予定していた時期から後ろにずれ込みました。そのため、今回は、年度内に開催予定の10件を除く、7件の活動について、企画者（あるいは講演者）の先生にご報告いただいております。ご味読ください。





# 活動報告

## ●2021年度の活動

### 公開講座（オンライン開催）

#### 第12回 お父さん・お母さんのための子育て応援講座 「子どもの安心基地になるために」

日 時：2021年4月22日(木) 10:30~11:30

オンデマンド配信期間：4月29日(木)~5月12日(水)

講 師：北川 恵(甲南大学文学部教授/臨床心理士/公認心理師)

スタッフ：岩本 沙耶佳(甲南大学心理臨床カウンセリングルーム  
相談員/臨床心理士/公認心理師)

参 加 者：38名(内訳:同時双方向型2名(甲南大学学生2名)、オンデ  
マンド配信36名(甲南大学学生23名、一般13名))

子どもは、お父さん・お母さんが「安心基地」になってくれることで、不安なときは信頼できる人を頼りながら、自分でいろいろな挑戦をすることができるようになります。本講座では、そうした関係を築くうえで大切なポイントを、「安心感の輪」のイラストとともにお伝えしました。今年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況をうけて、Zoomを用いたオンラインで開催しました。例年のように託児を併用した対面での開催はできませんでしたが、オンデマンド配信も併用し、当日の都合が悪い方や遠方の方にも参加いただきました。参加者からは、「子どもへの関わりかたについて、とてもためになった」「安心感の輪を大切に、子どもと関わっていききたい」「親子がホッとつながるグループ(甲南大学人間科学研究所主催)への興味が高まった」といった感想や、過去にも参加くださった方からは「定期的に話を聞ける機会があるといい」というフィードバックを頂きました。学生にとっても、「将来の子育てに生かしたい」「サポートの大切さを知った」と思える機会になったようです。日々、子どもに向き合っている親にも「安心基地」が必要です。来年度も子育て応援講座の開催を予定していますので、ぜひご参加ください。(報告者：北川 恵・岩本 沙耶佳)

### 第12期 親子がホッとつながるグループ2021

日 時：＜A 日程＞ 2021年5月20日から7月8日

＜B 日程＞ 2021年9月9日から11月4日

＜C 日程＞ 2022年1月27日から3月17日(予定)

実施責任者：北川 恵(甲南大学文学部教授/公認心理師・臨床心理士)

ファシリテーター：岩本 沙耶佳(甲南大学心理臨床カウンセリング  
ルーム相談員/公認心理師・臨床心理士/「安心  
感の輪」子育てプログラム認定ファシリテーター)

参 加 者：B日程に母親2名、C日程に母親1名

甲南大学人間科学研究所では、「親子がホッとつながるグループ」というグループ活動を毎年行っています。アメリカで開発された親子関係支援「安心感の輪」子育てプログラム(全8回)を実施しています。子どもを理解し、安心感を与える関わりについてのヒントになるようなDVDを見ながら、ファシリテーターと一緒に話し合います。2021年度は、コロナ禍の影響を受けてオンライン(Zoom)で実施しました。例年のように大学での託児を行えなかったことで参加が難しい方もおられましたが、遠方からご参加くださった方もいました。ご参加くださった皆様からは、「自分の苦手なところが分かってよかったです」「週1回、お会いして、自分のことを言葉にするという機会がすごく助かりました」などの感想を寄せていただきました。

来年度は、長引くコロナ禍にあっても安全に開催できる状況でしたら、例年通り、同プログラムを対面(託児あり)で行うことを検討しています。子育て中の皆様にホッとしていただけの場になることを願っています。参加者募集を年度初めに行いますので、ぜひご参加・お問い合わせください。(報告者：北川 恵・岩本 沙耶佳)

## 世代間交流体験

### 大学生による親へのインタビュー& 親子の自由遊び場面観察

実施担当者：北川 恵(甲南大学文学部教授)・岩本 沙耶佳(甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員)・木下 雅博(人間科学研究所博士研究員)

参 加 者：母親4名、本学学生1名(「心理地域援助」受講学生：岩橋 潤奈)

大学生が、働き・育てることへの多様なモデルに触れながら、ライフプランを描く機会となるように、人間科学研究所では大学生が乳幼児や親と交流する機会を設けています。その一つとして、大学生が、子育て中の親に「働くことと育てること」についての経験を尋ねるインタビューを行っています。今年度もコロナの影響を受けて、オンラインで実施しました。

親へのインタビューは、「多様なモデル」を抽出するためにカテゴリに分類しました(その詳細は2020年度のニュースレターで報告しています)。学生は毎年の質問項目に加えて、さらに聞きたいことを質問します。2020年度の参加学生は、「子どもの人数に応じて、よかったこと・大変なことは何だったか」「夫が家事・育児に関わる程度は(関わりが少ない場合、期待することは何か)」「夫以外に子育ての助けになる人は」を追加質問しました。今年度は、2020年度追加質問への回答結果を整理しました(表1)。

また今年度は、親子が遊ぶ様子をZoomで観察し、学生が「素敵だと思った親の関わり」を母親にフィードバックしました。例えば、子どもの状態をよく見て、見守ったり、手助けしたりと関わり方を調整している母親の様子に学生は注目しました。

表1. 子育て中の母親へのインタビューで語られた内容の整理  
(2020年度追加質問項目)

子どもの人数に応じて、よかったこと：

- (一人) 全力で子どもに目を向けられる
- (複数) 子ども同士で遊んでくれる、上の子が手伝ってくれる、子どもの個性を楽しみながら育てられる

大変なこと：

- (一人) ひとりで遊ばせている時間が長い
- (複数) 同時に複数の子どもの世話や対応をしなければいけない

夫が家事や育児に関わる程度：

割と関わっている、部分的に関わっている、ほとんど関わっていない

夫の関わりが少ない場合に、夫の関わりに期待すること：

主体的に関わってほしい

夫以外に子育ての助けとなる人：

祖父母、保育園、その他

本活動に参加した学生からは、次のような感想が報告されました。まず、親インタビューを通して、「働き方・育て方は決して一つではなく、さまざまなやり方があることに気づきました」とモデルが広がったことが語られました。また、親子の遊びの観察を通して、「これまでお母さんと子どもの関わりをあまりじっくりと見たことがなかったため、貴重な体験をすることができました」と新鮮な経験となったことが語られました。

これからも世代間交流の機会として本活動の継続を予定しています。インタビューにご協力いただける子育て中の父親・母親のご参加を募集しています。(報告者：岩本 沙耶佳・北川 恵)

## KIHS次世代育成研究会 特別講演会 「人口心理学から見た子育てと子育て」

日 時：2021年9月11日 13:00~15:30

司 会：森 茂起（甲南大学文学部教授）

講 師：子安 増生（京都大学名誉教授）、西尾 新（甲南女子大学人間科学部教授）、前田 正子（甲南大学マネジメント創造学部教授）

※共催：科研「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究 - 日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」（18H00950、代表：細井 勇）

参加者：19名（うち兼任研究員7名、客員特別研究員1名）

2020年度まで本学の文学部人間科学科特任教授を務められ、現在、研究所の客員特別研究員の子安増生先生による特別講演会を開催した。子安先生は、現在の「少子化」現象をより大きな枠組みで心理学の主題として捉えるために、「人口心理学」の樹立を目指しておられる。ご講演では、人口動態研究を概観し、人口減少の諸要因と日本を含めた人口推移が歴史を遡って確認された後、結婚、出生、親子関係、家族、子ども部屋という幅広い主題に関する心理的現象に注目しつつ、人口心理学研究の枠組みが提示された。

討論では、西尾新先生（甲南女子大学総合人間科学部）が「少子化時代の子育ての『価値』」という切り口から、前田正子先生（甲南大学ビジネス創造学部）が「子育てに不寛容な社会」という切り口から、それぞれのご研究を踏まえて人口減少下での子ども・子育てに光を当てられ、活発な議論が交わされた。

（報告者：森 茂起）

## 研究会

### 「アニメとトラウマ」研究会

日 時：2021年12月12日（日） 14:00~15:00

企 画：森 茂起（甲南大学文学部教授）、川口 茂雄（甲南大学文学部准教授）

講 師：足立 加勇（立教大学非常勤講師）、上尾 真道（京都大学研究員）

「アニメとトラウマ」プロジェクト研究グループでは、今回はクローズド形式の研究会を実施した。『心の危機と臨床の知』21号掲載の論文および年表ポスターと、2020年8月に開催したシンポジウム「2010年代アニメにおけるトラウマと最終戦争の表象——『魔法少女まどか☆マギカ』から『ケムリクサ』まで」との内容をひとつのベースとしつつ、戦中・戦後から21世紀現在にいたるまでの日本のアニメ作品・作品史を研究的に論じるための方向性の設定について、さらなる議論をおこなった。

一つひとつの作品が総合芸術であると同時に、総体としていまや長い歴史を有するアニメ文化にたいしては、学的方法論が何層にもわたって分厚く整えられてゆく必要があるだろう。一つの作品の徹底的な分析、複数の作品の比較、表現傾向の変化／継承の時系列的な追跡、不況や大災害といった社会全体の転機分析……、等々。多角的な研究のあり方と可能性に目を配りつつ、今後、ひとつのまとまりをもつ書籍として研究成果を編纂することについても具体的に有意義な検討がなされた。

（報告者：川口 茂雄）

## 学生の主体性を育む大学教育実践の試み

日 時：2021年9月9日（木） 13:30~16:00

司 会：高石 恭子（甲南大学文学部教授／甲南大学学生相談室）

話題提供者：友久 茂子（甲南大学学生相談室）、西浦 太郎（甲

南大学共通教育センター特任准教授／学生相談室）、  
渡里 千賀（甲南大学学生相談室）

指定討論者：山崎 俊輔（甲南大学学生相談室室長／共通教育センター教授）

※共催：甲南大学学生相談室

参加者：8名（うち学内職員2名）

甲南大学学生相談室では、学生の主体性の育成・発達促進を目的として、各種の心理教育的プログラムを実践してきている。

18歳から20代前半の学生の心を大学としてどう育てるか、そして学生と親の関係をどう支援するかは、人間科学研究所が研究テーマの一つに掲げる、広い意味での「社会による子育て」の問題とも捉えることが可能である。

本企画では、学生相談室がこれまで人間科学研究所と協働して展開してきたグループ活動や、少人数ワークショップ型授業などの取り組みのいくつかを報告し、その意義と今後の可能性について討議を行った。

緊急事態宣言の延長に伴い、急遽対面からオンライン開催に変更となったが、本学の学生、教職員だけでなく近隣の大学や関東からも参加者を迎えることができ、「やはり『五感を使った体験』というのはどの現場でも重要な部分だったと感じた」「またこういった機会があれば参加したい」などの感想をいただいた。

（報告者：高石 恭子）

## オンラインセミナー

### 『子育ての常識から自由になるレッスン』 を読んで育てることについて考える

日 時：第1回2021年8月18日（水）（YouTubeにて動画一般公開）

第2回2021年9月6日（月）（YouTubeにて動画一般公開）

講 師：高石 恭子（甲南大学文学部教授／甲南大学学生相談室）、  
佐々木 玲仁（九州大学大学院人間環境学研究院准教授）

視聴回数：第1回309回（2022年1月6日（木）時点）

第2回162回（2022年1月6日（木）時点）

豊かでのびのびとした子育てをするためには、おかあさんたちの心を縛りつけている「母とはこうあるべき」という「常識」とうまく距離をとって付き合うことが必要です。

子どもを育てるおかあさんの見方を解きほぐし、おかあさんの味方となる『子育ての常識から自由になるレッスン』（世界思想社、2021年6月30日刊）について、聴き手が著者と対談形式で語る、オンラインセミナーを動画配信により開催しました。

第1回の動画では、子育ての過程で経験する「負の感情との付き合い方」（第9章）を主に取り上げて解説し、その動画の視聴者から寄せられた11の質問やコメントに、第2回の動画の中で著者自らが答えました。

対談形式のセミナーという新しい試みでしたが、子育て中のおかあさんや子育て支援に携わる方々から共感と熱心な質問が寄せられました。

（報告者：高石 恭子）

## これからの活動

### シンポジウム

#### 第三回九鬼周造記念講演会「J哲学の最前線」

日時：2022年2月19日(土) 15:00～17:00  
企画：川口 茂雄（甲南大学文学部准教授）  
講師：山口 尚（京都大学非常勤講師）  
コメンテーター：千葉 雅也  
（立命館大学大学院先端総合学術研究科教授）  
※甲南大学図書館との連携

#### 「ライフプラン教育シンポジウム」

日時：2022年2月18日(金) 15:00～16:00  
企画：森 茂起（人間科学研究所所長）  
登壇者：小山 茂喜（信州大学教職支援センター教授）、  
荒井 英治郎（信州大学教職支援センター准教授）、  
伊藤 篤（甲南女子大学人間科学部教授）、  
西尾 新（甲南女子大学人間科学部教授）

### 甲南アトリエ

#### 「第12回親子孫子で楽しむアート： 語り継ぎたい伝統文様の魅力」

日時：第1回2021年12月24日(金)(YouTubeにて動画一般公開)  
第2回2022年1月28日(金)(YouTubeにて動画一般公開)  
企画：内藤 あかね（甲南大学人間科学研究所客員特別研究員）  
講師：椋田 三佳（美術家）

#### タイトル未定

日時：2022年3月5日(土) 10:00～11:30(予定)  
場所：18号館3階 講演室  
企画：服部 正（甲南大学文学部教授）、石川 路子（甲南大学  
経済学部教授/甲南大学地域連携センター所長）  
講師：森 太三（美術家）  
※甲南大学地域連携センターと連携

## 研究会

#### 「神戸市HOME環境評価研究会」

日時：2022年3月2日(水) 13:00～17:00  
場所：甲南大学18号館3階 講演室  
講師：森 茂起（甲南大学文学部教授）

#### 公開研究会「アートによる地域再生再考、 障害者アート、地域アートの未来」

日時：2022年3月21日(月・祝) 13:00～17:00  
場所：甲南大学（予定）  
企画：服部 正（甲南大学文学部教授）  
講師：沢山 遼（美術評論家）、石川 亮（成安造形大学地域  
実践領域准教授）、馬場 晋作（成安造形大学美術領域  
准教授）、三脇 康生（仁愛大学人間学部教授）

#### 「子どもの哲学」

日時：調整中  
企画：川口 茂雄（甲南大学文学部准教授）  
講師：川崎 悠一（宮城教育大学教育学部教授）

#### 「遊郭と地域社会」

日時：未定  
場所：Zoom によるオンライン開催  
企画：森 茂起（甲南大学文学部教授）  
講師：人見 佐知子（近畿大学文芸学部准教授）

#### 「子育てライブラリー」

日時：2022年3月(YouTubeにて動画一般公開予定)  
企画：北川 恵（甲南大学文学部教授/臨床心理士/公認心理  
師）、岩本 沙耶佳（甲南大学心理臨床カウンセリング  
ルーム相談員/臨床心理士/公認心理師）

## ワークショップ

#### 「発達障害や発達特性のある子どもの基本的理解と対応」

日時：2022年2月26日(土) 10:15～11:45  
場所：甲南大学 iCommons iStage  
担当：大西 彩子（甲南大学文学部准教授）  
講師：望月 直人  
（大阪大学キャンパスライフ健康支援センター准教授）  
※甲南大学地域連携センターと連携

発行年月日：2022年2月18日

## 編集後記

今年度は、昨年度の経験を踏まえ、オンラインでの開催を念頭において計画を立てた活動が多数ありました。しかし、対面で行う事に意義のある活動については、なかなか開催の時期を決められず、当初の予定通りには進められませんでした。私の任期は今年度で終わります。最後の年がこのような結果になってしまい、ふがいない気持ちでいっぱいです。次年度に着任する研究員がうまく活動を運営できるように、土台をつくっております。きっと新しい方がより素晴らしい報告をしてくださることでしょう。これからも人間科学研究所をどうぞよろしくお願い申し上げます。

